

## 事業計画書

<p>現在の地域課題に対する本事業での実施内容</p>	<p>市民が豊かな生活を営むため、また移住者が疎外感や孤独を感じる課題を解決するために、安心・安全な場でゆったりとした、まるでおばあちゃんの家や親戚の家に行ったような時間を過ごせる集いの場を作ります。そこでは、移住者自らが講師となり、芸術や文化を楽しみながら地域住民と交流し、食・農・健康の向上を図るようなイベントを開催します。</p>
<p>対象となる人・範囲</p>	<p>移住者を中心とした、佐久地域の子どもからお年寄りまで。</p>
<p>事業の効果、達成目標 (達成目標はできる限り数値で示すこと)</p> <p>記載ポイント</p> <p>事業の ・公益性</p>	<p>移住者が講師となることで、参加者と趣味やスキルを共有し、自己表現の場が広がります。そして気軽に立ち寄ることのできる集いの場での交流により、移住者同士や地域住民とのつながりが強化されることが想定されます。移住者が持つ異なる文化や経験を通じて地域の文化が豊かになり、共有される機会が増え、地域に対する愛着や関心が深まります。</p> <p>達成目標 年間15回の講座 10人×15=150人 うち移住者15組 地域住民15組</p>
<p>詳細</p> <p>(活動内容・方法・スケジュール等をできるだけ詳しく、別添資料のある場合はその旨を記載する)</p> <p>記載ポイント</p> <p>事業の ・独自性 ・発展性 ・実現可能性 ・団体の自立促進</p>	<p>2025年度のワーク、ショップでは、古民家を中心としながらも、うち織りなど地元の伝統工芸との交流を行うことができました。今年度は、前2年間で好評だった写真展などの企画に加え、講師未体験の方を招き、個人の自己実現・講師の育成を行います。また、開催場所について古民家を拠点としながら、他団体や既存の施設・お店（中込商店街のカフェや、白田ホシノマチ団地のシェアスペースなど）を活用しながら集いの場を設定していきたいと考えています。規模としては毎回10人前後、多い時でも20人程度の小規模とし、参加者同士、講師と参加者が対話しやすくなるよう考えています。回数も年間計画でぎっしり詰め込むのではなく、開催希望があれば随時開催できるくらいの余裕を持っていきたいです。</p> <p>①独自性 古民家を中心に、農・食育、気軽に参加できる少人数制イベントを開催し、対話に重点を置いた企画を提供します。</p> <p>②発展性 多職種の人材が集まっている団体なので、講師未体験の方でも相談しながら講座を行い、個人の成長や地域の発展に寄与します。</p> <p>③実現可能性 地域住民や移住者の声を積極的に取り入れ、ニーズに合った形でイベントを企画することができます。</p>
<p>重点テーマに該当する理由</p>	<p>※該当する場合のみ記入 移住者サポートとして移住者自らがイベントを開催し、地元のコミュニティを形成する動きは区分5「移住・定住につながる取組」に該当すると考えます。</p>
<p>翌年度以降の取組</p>	<p>4年目:他団体、組織とのつながりを広げる 5年目:グランマ佐久平といえば〇〇、という恒例イベントの定着化</p>